

令和4年度幼稚園学校評価（出雲市立荒木幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価	評価	
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・教育目標や目指す幼児像をふまえ、学級の実態に応じた学級経営案を作成し、地域の特性や季節を考慮した保育活動に取り組んだ。各担任は毎月の指導計画を作成するにあたり、担任間で保育構想の話し合いを行い、共通理解し保育実践をしている。その後振り返りの反省を職員で行い改善に活かそうと努めた。	4	4	・担任は幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにの実態把握に努め、毎月の指導計画の工夫をする。 ・PDCAサイクルを活かしながら、具体的な計画となるようにしていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・遊びを通して幼児が何を楽しみ、何を実現しようとしているのか幼児の心の理解をするよう努めた。 ・担任は一人一人のよさや可能性を引き出せるよう環境を構成し必要に応じて見直し、幼児のどこの場、どの子にかかわったらよいか瞬時に見舞わめる目が必要であった。	3	4	・個人の課題とせず、日常的な情報共有を園全体で取り組んでいく。 ・幼児の遊びをどのように構成するのか、教師間でアイデアを出し合う研修を重ねより遊びが楽しくなっていくための保育者の援助を議論していくことで、幼児理解を追求していく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・園内支援会議を適宜行い共通理解を図り、組織としての対応に努めた。 ・就学に向けて特別な支援を必要とする幼児の情報共有を小学校と丁寧にかかわることができた。また、関係機関・保護者との合同支援会議では、互いの共通理解に努め、継続した支援体制が整うよう努め	3	4	・コロナ禍ではあったが支援会議や情報共有の機会をきめ細やかに確保し、実態や課題を明確にしていくことができた。今後も小学校との連携を充実させていく。 ・特別支援コーディネーターは、研修や指導を受けたことを職員に伝達し指導方法を周知する。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・一人一人を大切にしたい温かい学級作りができるよう担任や補助教諭は、温かく共感的な態度で対応していくよう努めた。 ・保育活動の中で特に、トラブル場面や葛藤場面を大切に捉え他者の気持ちや自らの行動について考えさせるよう指導している。	3	4	・職員自身が人権を「自分ごと」と受け止め、心の教育の推進や命を大切に教育に努める。 ・豊かな心を育てるための自然体験、人のかかわり、生き物のかかわり、言葉遊び等計画的に取り入れ心を耕す保育実践を展開していく。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事に至るまでに様々な体験をし、遊びを広げたり、深めたりしながら一人一人の育ちを支える援助に取り組んだ。 ・昨年度の反省を活かしつつ、それぞれの行事の教育的価値を十分に検討し、達成感を味わうことができるよう配慮した。	4	4	・行事そのものを目的化せず、結果やできばえを過重に期待することなく、発達の過程や生活の流れからみて、ふさわしい活動となるよう見直しを行う。 ・家庭や地域との連携の下で幼児の生活を変化と潤いのあるものにしていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・恒例の5年生との交流は持てなかったが、小学校の校庭で遊び小学生から気軽に声をかけてもらうことを喜ぶ幼児が多かった。小学校への期待感につながった。 ・合同避難訓練では、担当者間で綿密な打ち合わせがもてたことは良かった。今後は振り返りまでを実施できるようにしたい。	3	4	・コロナ禍の中でも校庭開放は幼児にとって、開放感と小学校を身近に感じることができよい取り組みであった。子供たちの健やかな成長のために継続して取り組んでいく。 ・町内一斉のチャレンジ週間は保護者は意欲的に取り組んでいるので、園と情報共有しながら継続していく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・基本的生活習慣が定着するよう個々に応じてきめ細やかに繰り返し行うことの大切さを家庭と連携を密にしなが指導するよう努めた。 ・個人懇談を年3回実施、学級懇談会、個別の懇談等で、家庭生活の様子を共有し、幼児理解にもつながった。 ・未就園児教室年10回開催する中でプレ幼稚園ごっこを楽しんでもらった。	3	4	保護者に幼稚園での遊びが分かりやすいよ、掲示物や写真の工夫をしていき、子供の育ちが実感できるよう工夫をしていく。 ・クリーン作戦では初めて荒木コミセンのごみ拾い等体験させてもらい、充実感を感じる幼児が多かった。自分たちの住んでいる地域を知り、住みよくするよう次年度も継続していく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・全職員で取り組んでいく研究だが、園内研究会の開催日の設定や保育公開者に難航した。 ・指導を受けた内容を保育に生かきれていない場面も見られ課題があった。 ・保護者研修会で外部講師を呼び、小学生生活に向けて大切にしたいことを、職員も共に拝聴し学ぶことができた。	3	4	・園内研修会に向けて幼児一人一人の育ちが見られ喜びはあったが指導案審議が十分にできなかったので反省的視点を持って次年度は取り組んでいきたい。 ・3学級編成は互いの保育を見合うことができ、学年の幼児の発達から遊びを理解することができ、学びの場となるので継続したい。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・職員が意識して「報告」「連絡」「相談」に努め、情報の共有化に努めた。 ・担当する園務や自分の役割を自覚し、的確に処理しようとする知識や態度が見られ多忙感の解消に努めた。	3	4	・園経営や学級経営の目標達成に向けて職員間のコミュニケーションを図り、職場の活性化と雰囲気作りに取り組んでいく。 ・自己の知識やノウハウを活かし、計画的に遂行していく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・定期的実施した避難訓練、津波による小学校への避難では、「おはしも」の徹底と、振り返りで職員の危機管理意識を高くもつことができた。 ・幼児の健康管理は、たよりやボードで保護者に情報発信し、協力依頼を行った。	3	3	・幼児の命を守ることの重要性を再確認し、工夫を凝らしながら繰り返し指導していきたい。 ・次年度は送迎時の保護者引き渡し避難訓練の実施をする。 ・保護者一斉配信「マ・メール」の活用を工夫をしていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・毎月の安全点検(園舎・園地・遊具・教材等)を行い全職員で安全管理をしている。不備があった場合はすぐ担当課・業者に対応し、修繕を行っている。 ・園舎の老朽化もあり、以前から指摘されているが、緊急性が高いものから順次修繕をしていきたい。	3	3	・施設の安全点検票に基づき、継続して保育室や廊下、トイレ・手洗い場等部分修繕をしている。 ・緊急性の高いものは施設課に連絡し修繕をしている。改修後は、保護者に幼児の安全を守っていただけるよう周知している。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する